

ひがし いけ じり ちょう
町 尻 池 東

御厨子観音で花まつり

町西南の御厨子山頂に、土地の氏神「御厨子神社」が鎮座しています。

初め「水尻神社」と呼ばれたこの社は、この地一帯に古代あったという磐余池（いわれいけ）の池尻に位置したことから社名が生まれたと伝わり、当地名が生まれた事情も同じでないかと思われます。

地名が古文書に初登場するのが応永六（二二九九）年の春日大社文書で、そこに南都・興福寺関係の領地として「池尻」と見えます。また永正一二（一五一五）年の談山神社文書「多武峰領膳夫荘差図」では、領地南東に現在の東池尻町とみられる「池尻藪里」が図示されています。地名が中世の室町時代からあったと考えられます。

江戸時代の初め南山村に含まれていた当地が「南山村之枝郷」から分離独立したのは、江戸幕府関係の土地台帳（元禄郷帳）などからみて寛永一六（一六三九）年―元禄一三（一七〇〇）年の間でないかと思われます。池尻村として明治時代を過ごしたあとの明治二二年に香久山村の大字となります。

昭和三一年九月に桜井市大字となり同年一〇月、檀原市に編入され「檀原市東池尻町」が生まれました。同町の妙法寺で毎年五月第二日曜日に「御厨子観音花まつり」が開かれています。